

平成23年度予算編成・財政運営は



榎本雅夫 議員

質問

景気は依然として厳しい状況で、市民にとって明るい兆しが見えてこない。限られた財源の中で、市民生活の維持、ニーズに応じた施策は、行政の責務として予算を確保しなければならぬと考える。
 新年度予算平成の基本方針と重点施策は。

企画部長

国政の動きに注視しながら歳入に応じた歳出にする。
 総合斎苑、給食センター建設、勝幡駅前整備事業など。

質問

平成21年度決算では、市税は歳入構成比率32%で、前年度に比べ5.2ポイント減少し、また自主財源と既存財源の比率は、47.7%で前年度よりも4.4ポイント減っている。健全な財政運営を確立するためにも財源の確保が重要である。そのためには企業誘致や公有財産の有効活用、広告収入、市税などの収納率向上に努力することである。
 市の財源確保と財政運営は。

企画部長

大型プロジェクト事業について、合併特例債を充当し、その他特定財源の確保に努めていく。

総務部長

広告収入について、封筒、広報誌、バナー広告などで200万円。昨年度は1件の市有財産の売却150万3千円。本年度は2件55万3千800円ほどである。

質問

市民ニーズに役立つ資料をいつでも提供できる地域の拠点としての図書館の果たす役割は重要である。

中央図書館、佐織図書館、立田図書館の利用状況は。

教育部長

平成22年11月30日現在の登録数は、市内では

1万3千696人、市外は2千352人。貸出人数は、平成21年度で中央図書館が5万8千982人、佐織図書館が1万6千94人、立田図書館が668人である。

質問

市内に多くの自主防災会が活動している。市民の防災意識の

愛西市図書館の充実を

高揚のためにも防災関係の本のコーナーを設置しては。

教育部長

9月1日の防災の日から、1カ月程度設けていきたい。

質問

インターネットを使って電子図書を出すWeb図書館に取り組んではどうか。

教育部長

インターネットによる予約は行っていないので、今後の課題として考えていきたい。

質問

雑誌の表紙に企業名を表示し、購入費を負担してもらう雑誌スポンサー制度の実施をしてはどうか。また、図書館で借りた本を記入する読書通帳をつくって配布しては。

教育部長

今後、検討していきたい。



愛西市中央図書館